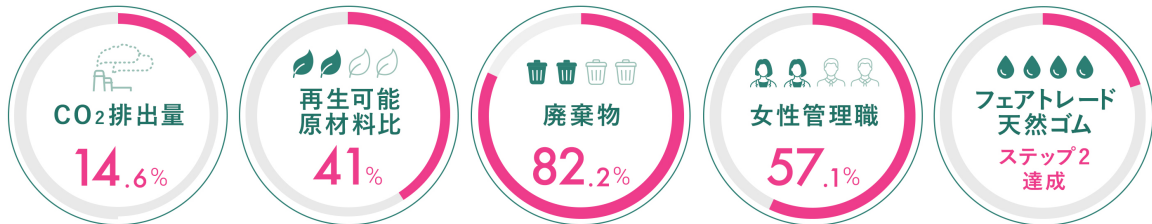


YUKIGAYA サステナブルレポート 2023

雪ヶ谷サステナブルチャレンジ2030

— 2023年達成状況 —



Special Topics

第7回ジャパンSDGsアワード

SDGs推進副本部長（内閣官房長官）賞 受賞

弊社のこれまでの取組が評価され、民間企業では初めて内閣官房長官賞を受賞しました。これからも、取引先、消費者のみなさまと共にさらなる取組を進めてまいります。



稲敷市「持続可能な地域づくりシンポジウム」に登壇

茨城県稲敷市主催の「持続可能な地域づくりシンポジウム」に弊社代表坂本昇が登壇。弊社の事例を紹介すると共に有識者とパネルディスカッションを行いました。



日本初のSDGs工業団地「iSIP」始動

弊社が立地する茨城県稲敷市の下太田工業団地、下太田第2工業団地17社のみなさまと共に、サーキュラーエコノミーやカーボンニュートラルをパートナーシップで目指す、日本初のSDGs工業団地「iSIP (Inashiki Sustainable Industrial Parks)」をスタートさせました。





CO₂排出量

2030年までの目標

スコープ1、2のCO₂排出量実質ゼロに



主に廃棄物量減や日照による太陽光発電料増により、CO₂排出量が2ポイントほど減少しました。しかしながら状況要因による減少なので、設備や事業の方法によって排出量を減らす施策を検討しています。

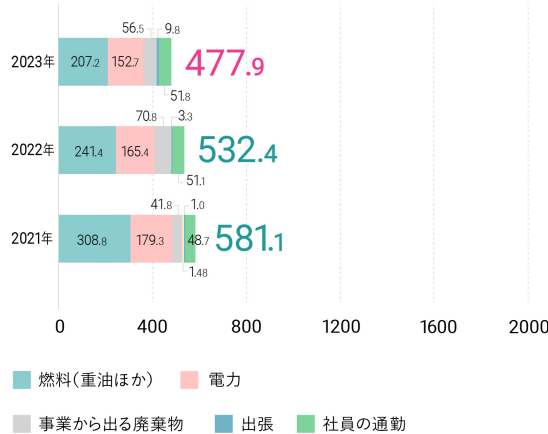
※Scope1排出量(直接排出)+Scope2排出量(間接排出)+Scope3排出量のカテゴリ-5,6,7の排出量合計です。

※達成率=太陽光発電によるCO₂削減量÷(2022年CO₂排出量+太陽光発電によるCO₂削減量)

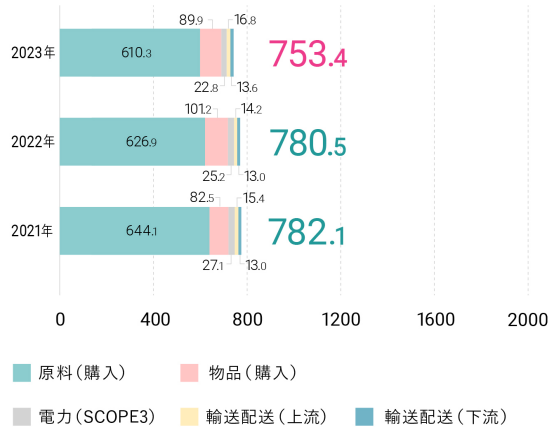
※2023年つくば事業所年間太陽光発電量178,437 kWh* = CO₂排出削減量81.5t-CO₂

※ここに示しているCO₂排出量は、温室効果ガス(GHG)のCO₂e = CO₂換算排出量です。

2023年CO₂排出量の内訳(単位:t-CO₂)



参考データ: サプライチェーンCO₂排出量(Scope3)(単位:t-CO₂)



主な取り組み

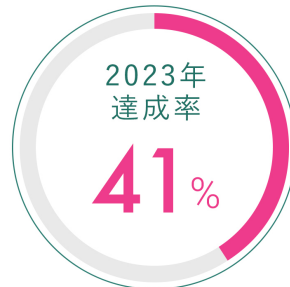
- ・サーマルリサイクルボイラーの故障を受け、よりCO₂排出量の少ない設備の導入を検討しています。



再生可能原材料比

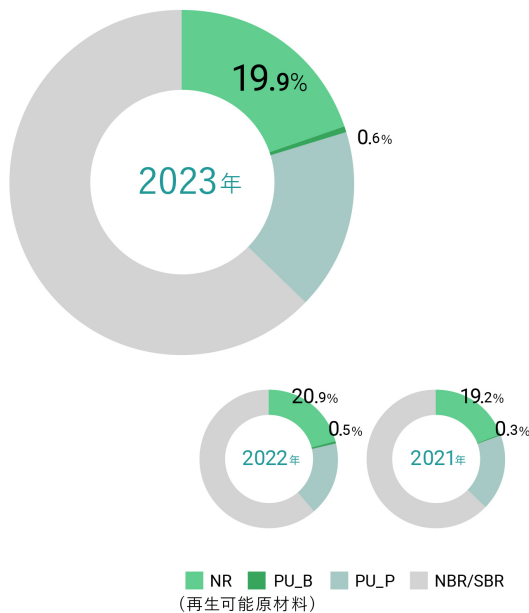
2030年までの目標

再生可能原材料比を50%に



植物由来の再生可能原材料比率20%はキープしましたが、やや比率が下がりました。販売比率の増加が課題です。

再生可能原材料



※NRは天然ゴム、PU_Bは植物由来のポリウレタン原料、PU_Pは石油由来のポリウレタン原料、NBR(アクリロニトリル・ブタジエンゴム)、SBR(スチレン・ブタジエンゴム)は石油由来の合成ゴム原料です。

主な取り組み

- ・日々の営業活動の中で再生可能原材料使用製品を積極的に推奨しているほか、CITE JAPAN2023などのイベント出展などによる認知拡大を図っています。
- ・製造工程で使用する接着剤等も植物由来原料を使用したものへの変更を検討しています。



廃棄物

2030年までの目標

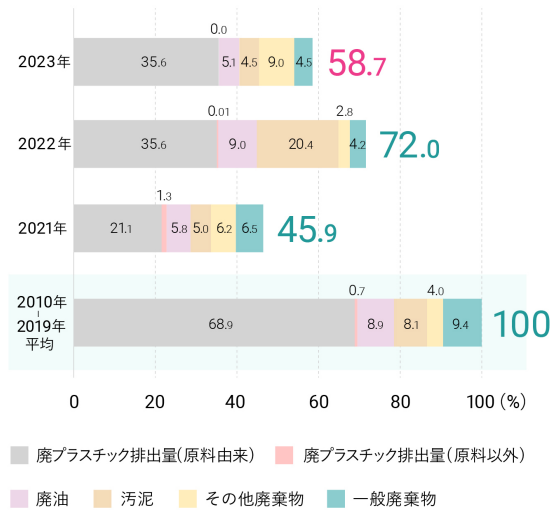
全行程での廃棄物を50%に

※2010-2019年平均比



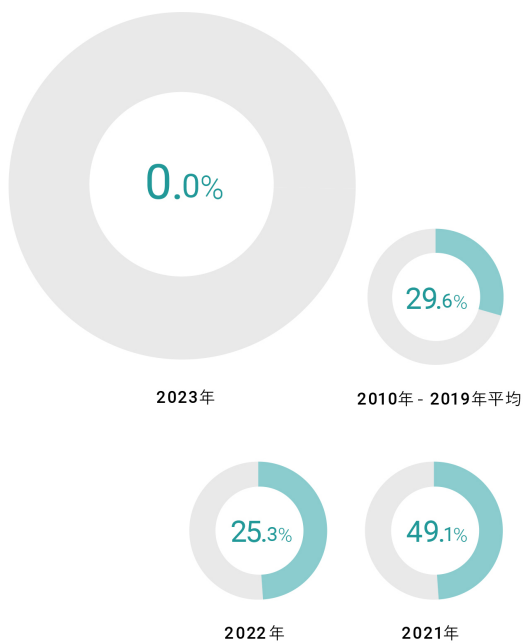
製造時の原料使用量をより詳細に管理できるシステムの導入と中間生成物を無駄なく使う工程改良により、歩留まりを約6%改善することができ、廃棄物比率を小さくすることができました。

廃棄物量
(2010-2019年平均廃棄物量を100とした割合)



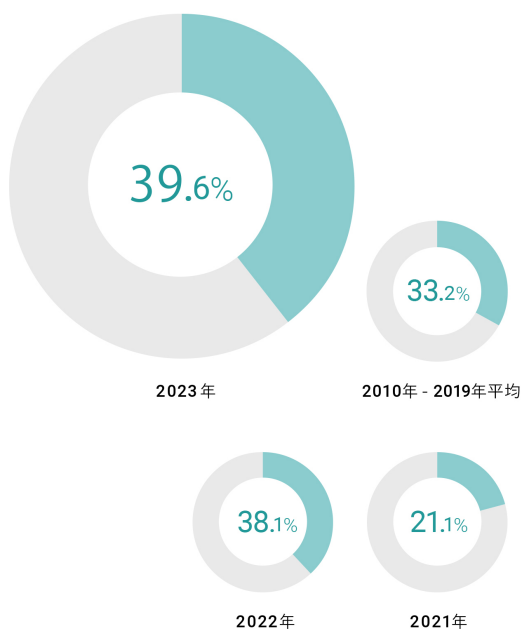
※産業廃棄物=廃プラスチック排出量(原料由来 / 原料以外)+廃油+汚泥+その他廃棄物
 ※その他廃棄物=燃えがら+木くず(木パレット)+ガラス・コンクリート・陶器くず
 ※埋立処理に使われている一部の汚泥を除き、廃プラスチックは燃料または路盤材として、
 廃油はNox抑制燃料として、汚泥、燃えがら、ガレキ類はセメントやコンクリート素材として、
 木くずは木質チップとしてリサイクル利用されています。

廃プラスチック自社サマリサイクル比率



※廃プラスチックサマリサイクル比率=
廃プラスチック排出量(自社サマリサイクル分)÷原料由来廃プラスチック排出量全量
※サマリサイクルボイラーの故障、停止により自社サマリサイクルができませんでした。

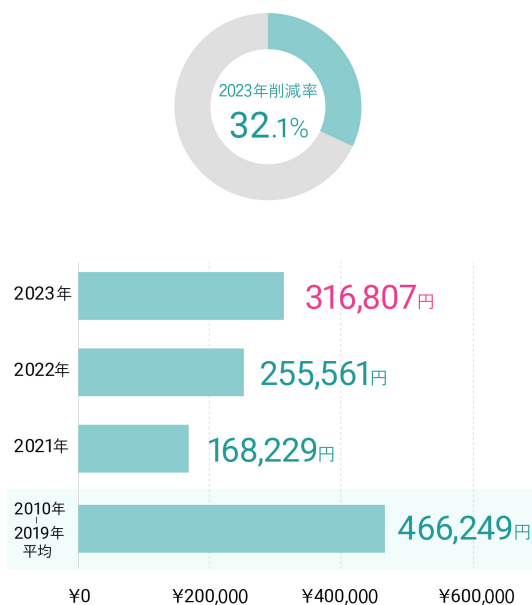
プラスチック廃棄比率=
プラスチック廃棄量(自社サマリサイクル分除く)÷原料消費量



その他廃棄物

本社オフィス廃棄物(コピー用紙、文具他購入金額)削減率

2010-2019年平均購入金額比



※本社オフィス廃棄物は、上記一般廃棄物には含まれていません。

主な取り組み

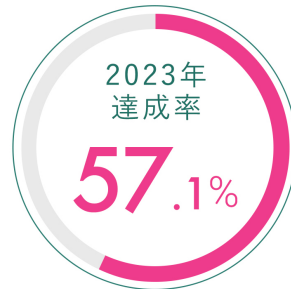
- ・製造時の原料使用量をより詳細に管理できるシステムを導入し、歩留まりを改善しました。
- ・製造途中の中間生成物の廃棄基準を見直し、無駄が少なくなる工程に改善しました。
- ・今までリサイクルができていなかった「ゴミ袋」「樹脂製ドラム缶」「パレット」の資源リサイクルをはじめました。
- ・過剰な不良判定による廃棄量を減らすため、取引先さまと協議し、納入製品の合格基準を見直しました。
- ・ペットボトルのフタを回収し、途上国のワクチン接種費用に変える取り組みをはじめました。



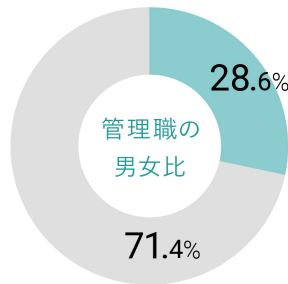
女性管理職

2030年までの目標

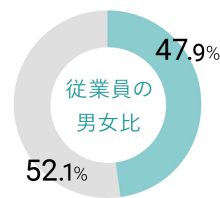
女性管理職50%に



管理職の男女比



従業員の男女比



■ 女性管理職 ■ 男性管理職

■ 女性 ■ 男性

主な取り組み

- ・昨年提案したキャリアの選択肢を広げる目的のジョブローテーション制度が認められ、工場内でジョブローテーションを実施しました。
- ・プロジェクトチーム主催で、従業員数名ずつ集まり意見交換会を実施しました。
- ・総務部によるキャリアチャレンジ面談を実施しました。



フェアトレード天然ゴム

2030年までの目標

日本で流通する天然ゴムを100%フェアトレードに



製品パッケージ、HPでフェアトレード天然ゴムマークを使用していただいているお取引先は、3社(昨年)→6社に増えました。フェアトレードNR使用製品を採用いただいているお取引先は、海外顧客含め、5社(昨年)→8社になりました。



ジャパン・オーガニック株式会社様HPより



株式会社シャロン様



粧美堂株式会社様



株式会社OSAJI様

このチャレンジの達成ステップ

STEP 1	雪ヶ谷化学が扱う天然ゴムを全てフェアトレード調達し、業界内外に必要性を発信する
2023年達成 STEP 2	フェアトレード天然ゴムマークを複数社が使用し、化粧品業界および他のゴム製品でフェアトレード天然ゴム使用を発信する企業が増える
STEP 3	フェアトレード天然ゴムマーク使用企業が10社を超え、化粧品業界および他のゴム製品でフェアトレード天然ゴムの認知と理解が高まる
STEP 4	タイヤを除いた国内生産品におけるフェアトレード天然ゴムの使用率が10%を超える
STEP 5	タイヤを除いた国内生産品におけるフェアトレード天然ゴムの使用率が30%を超える
STEP 6	タイヤを除いた国内生産品におけるフェアトレード天然ゴムの使用率が50%を超える
STEP 7	タイヤを含めた国内生産品におけるフェアトレード天然ゴムの使用率が30%を超える
STEP 8	タイヤを含めた国内生産品におけるフェアトレード天然ゴムの使用率が50%を超える
STEP 9	タイヤを含めた国内生産品におけるフェアトレード天然ゴムの使用率が75%を超える
STEP 10	日本で生産される製品に使用される天然ゴムがすべてフェアトレード天然ゴムになる

主な取り組み

・今年には日本からもSDGsプロジェクトリーダーが現地スタッフと共に農園に出向き、当社で扱う天然ゴムが児童労働や強制労働がなく、公正な取引で調達されていることを調査し、確認しました。現地で働く人の声を聞き、環境を体感することで理解を深めることができました。



<フェアトレード天然ゴム100%使用マーク>



趣旨にご賛同いただき、使用を予定、
活動協力していただいている企業のみなさま

株式会社江北ゴム製作所、錦城護謨株式会社、茂ゴム株式会社、
株式会社越智製作所、株式会社プロス

その他のSDGsアクション

CITE JAPAN 2023 にサステナブルチャレンジブースを出展しました

前回に続き、CITE JAPAN にSDGsを発信するブースを出展しました。ブースは主に木材と紙素材で構成してCO₂排出量を減らし、出してしまうCO₂に関してはカーボンオフセットをすることにより、CO₂排出量ゼロブースとしました。元TBS東大王紀野紗良さんとの鼎談動画も上映しました。



和洋九段女子中学校の生徒さんとSDGsな製品づくりをしました

5月、和洋九段女子中学校の生徒さんたちが課外活動として、弊社のSDGs活動を学びに来てくれ、勉強会をしました。7月には生徒さんたちと一緒に、文化祭で展示するためのスポンジを使ったSDGsな製品づくりを行いました。



エフピコ関東リサイクルセンターへ、SDGs社外学習に行きました

エフピコさんはスーパーやコンビニなどで使用されている食品トレーのトップメーカー。SDGsがはじまるずっと前からリサイクルに取り組んでいます。32年前からはじめたスーパーのリサイクルステーションの苦労話を聞いたり、実際に機械によってトレーがリサイクル処理される工程を見たり、学びの多い社外学習でした。



アンコンシャスバイアス研修を行いました

当社のSDGsへの取り組みを見てご連絡をくださった法政大学専門職大学院イノベーション・マネジメント研究科の高瀬様を講師に迎え、「性別のアンコンシャスバイアスの気付き」の研修を行いました。



男性社員を対象にジェンダーレスメイクとスポンジの使用法講座を開催しました

はじめて化粧をした男性社員が多く、これからTPOに合わせて化粧をしてみようと思った、自社製品のことがよくわかったと好評でした。

